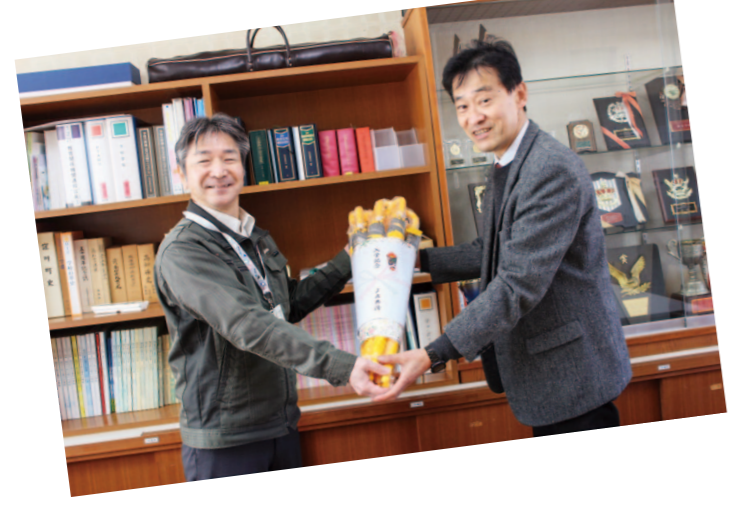


高西 地区から こんにちは

四万十地区より



通学傘を新1年生へ

高西地区信用共済部信用共済課ライフアドバイザー（LA）は、この春小学校へ入学する管内の新1年生を対象に交通安全傘と横断旗を贈りました。この活動は地域貢献活動として毎年実施しており、四万十地区で8校、津野山地区で2校を訪問し、全131本の傘と45本の横断旗を贈呈しています。

四万十町立窪川小学校では、山下建信用共済部長が窪添泰平校長へ新入学児童49人分の傘と5本の横断旗を贈呈しました。児童の登下校時の安全を願い、今後も交通安全教室の開催など地域に根差した活動を行っていきます。雨の日も元気に通学してくださいね！



津野山地区より



♪かわいい看板娘です♪

津野町高野の市川商店の
トイプードル 小麦ちゃん
柴犬 サクラちゃん

津野町高野の市川商店では、店先で可愛い看板娘、サクラちゃんと小麦ちゃんがお客様を待ってます。

天気の良い日は、ゆっくりと日向ぼっこ☀️すぐ前の国道を大きなダンパーが通りますが、騒音の中でもぐっすり眠れるサクラちゃん😊春はお散歩しながらモグラを探したりして楽しめます。

近くにお越しの際は、サクラちゃんと小麦ちゃんに会いにきませんか？

只今、ダブルで彼氏募集中です♡

大野見地区より



大野見出張所店舗 移転のお知らせ

大野見支所につきましては、3月11日（月）より、「JA高知県 四万十支所 大野見出張所」と名称を変更し、翌週18日（月）からは購買横の新店舗にて金融業務（信用・共済・ATM）を開始しております。出張所への入り口は少し分かりづらいですが、ATMへの入り口と一緒にしており、ATMの奥が出張所の窓口となっております。

以前の事務所と比べてコンパクトになり、より一層お客様との距離が近くなったように感じます😊「綺麗な建物になったね。」「陽が入ってくるから明るいね。」などのお声掛けを沢山いただき、とても嬉しい限りです！

業務につきましては移転前と同じく、信用業務と共済業務を行っておりますので、これまで同様元気に営業しておりますので、お気軽に窓口へお声掛けください！！

できごとピックアップ

地区内のイベントや、地域農家の取り組みなどを紹介します！



視察で得た知識を今後に活かしていきます！

1 四万十地域 四万十ポークブランド 推進協議会の淡路島視察

四万十ポークブランド推進協議会は3月27日、先進的な産地ブランド化及び登録商標活用取り組みを学ぶため、淡路ビーフブランド推進協議会（淡路市）へ視察研修に赴きました。管内の養豚農家で構成する窪川養豚協会と関係機関9名が参加しました。淡路牛の中でも、厳しい審査基準をクリアし淡路ビーフと名を受けられることができるのは年間200頭程度で、協議会の事務局によりSNSを通じたPR活動、行政との連携、食味の計測、商標の適正使用についての管理等が行われています。地域団体商標を取得することで淡路ビーフのブランド価値を守り、生産農家に還元できることがメリットですが、淡路牛との差別化を図ることに苦労があるとのことでした。

四万十ポークブランド推進協議会として初めての県外視察研修でしたが、大変学びの多い良い経験となりました。今後も地域団体商標登録について検討を継続し四万十ポークブランドの強化につながるような取り組みを協力して進めていきます。



農業振興について補助事業などの活用を推進しています

2 津野山地域 津野山園芸部 総会を開催

3月27日、津野山園芸部総会が開催されました。総会には、みょうが部会・なす部会・土佐甘とう部会の部会員が参加し、令和5年度の事業報告と、令和6年度の活動計画について協議されました。提出議案の承認後は、JA融資担当が農業資金について、須崎農業振興センターが園芸用ハウス整備事業について、梶原町役場・津野町役場が町独自の補助事業等について説明しました。経営規模や今後の取り組みを踏まえたくうえで、農業を継続していくために活用できる事例など、有益な情報を共有しました。なお、補助事業に関する詳細は、津野山経済課までお問い合わせください。

会の最後には農業事故について情報提供を行い、今一度農業の安全使用について、農業使用基準の遵守や廃棄農業に関することなど確認と講習を行いました。その中で「自分たちは食品を作っている」という意識を持ち、農業使用に限らず、収穫・調整作業を含め安全安心な農産物生産に努めるよう再確認しました。

3 四万十地域 四万十酒米生産部会 西岡酒造店視察へ



より良い品質目指し酒米栽培に取り組んでいきます

3月13日、中土佐町久礼にある西岡酒造店へ、四万十酒米生産部会による視察が行われ、部会員と農協職員、高岡改良普及所から11名が参加しました。西岡酒造店は240年余りの歴史を持つ高知県最古の酒蔵で、案内してくれた杜氏の島村浩史さんは、同部員として酒米も栽培しています。酒蔵内は芳醇な香りに満ちており、部会栽培している酒米「吟の夢」も原料として扱われています。「吟の夢」は柔らかい性質で、今年も良い品質で仕込みに使用されたとのこと。部会員は自身の酒米がお酒になるところを視察し、より一層栽培に取り組む気持ちを強くされました。西岡酒造店のしつかりとした辛口のお酒はタタキによく合いますので、是非飲んでみてください！

4 津野山地域 津野山茶生産組合 静岡視察研修



お茶の販売促進につなげていきます

3月4日、津野山茶生産組合とJAは荒茶の長年の取引先である、静岡県の株式会社を訪問し、まもなく始まる一番茶の販売要請を行いました。株式会社は年間約3トンの取引があり、加工施設ではその工程や安全管理方法などを見学しました。翌日には、令和2年11月に開業した静岡県最大級の緑茶・農業・観光の体験型フードパーク「KADODE OIIGA WA」を視察。お茶の魅力提案や観光との組み合わせなど、今後の津野町のお茶の販売促進活動に向けての参考になりました。また、19日には茶生産組合総会を開催し、生産組合長に黒川満洋氏、副組合長に三原大知氏が新たに就任しました。

5 四万十地域 興津園芸部 中間検討会を開催



市場との有意義な意見交換の場となりました

3月25日、令和6園芸年度のJA高知興津園芸部中間検討会が開催されました。コロナ禍の影響から見合わせていましたが、今回は6年ぶりの開催となりました。会議では、県内外取引先市場8社から販売動向の報告が行われ、市場からは「生産経費が高騰し厳しい生産状況なのか、農家手取りにつながるように販売取組みしていくので、品質の高いミョウガ・ピーマンの計画的な出荷をお願いしたい」との意見があり、活発な検討会となりました。検討会後は、園芸女性部による地域の食材を活用したおいしい料理を堪能し生産振興への取組みを確認しました。

6 津野山地域 お茶の淹れ方出前授業



渋みを出さないように淹れられるかな？

3月1日、津野山経済課は津野町立中央小学校三年生を対象に、お茶の淹れ方について出前授業を行いました。地域の子供たちに地元の特産品であるお茶について学習してもらい、美味しさや魅力を知ってもらおうと毎年開催しています。今回の授業では、お茶の効能や淹れ方について説明し、急須を使ったお茶の淹れ方を実践しました。子供たちは温度や抽出時間などで味がどのように変化するかを確認。「お湯の温度を70℃くらいにして淹れたら、渋みが少ないお茶になって美味し！」と驚きの声がかれました。後日、食育学習でお世話になった生産者や地域の方をお招きし、お茶パーティーを催したそうです！

カントリーエレベーター 利用者を募集中



四万十カントリーエレベーター（以下、CE）は、県内唯一のお米の乾燥・貯蔵・調整施設として、30年以上地域の皆様とともに歩んできました。

CEをご利用頂くには、下記の要件のもと、利用生産者で組織するCE利用組合への加入が必要です。

利用に興味のある方には詳しい説明をさせていただきますので、下記まで問い合わせください。

受入対象

四万十町窪川地域の台地部のほ場で生産した下記品種

受入品種 および 受入期間

（品種により受入期間を定めています）
あきたこまち・飼料用米あきたこまち：8/20～8/31
ヒノヒカリ：9/17～9/30
にこまる：10/2～10/15

利用組合費

年会費：不要 ・ 従量賦課金：0.5円 / 受入生粳 kg 当

利用料

受入生粳の水分率により設定しています

【試算】 経営規模…1ha・玄米反収 420kg・生粳水分 24%と仮定

自家乾燥・調整の場合の機械装備…乾燥機 1台・粳摺機 1式を 12年使用と仮定

CE利用の場合：約 18万円 + CEまでの運搬費

自家乾燥・調整の場合：約 34万円（償却相当額・修繕費・光熱費・資材費）+ 雇用費等

お問い合わせ先

高西営農経済センター販売課（TEL.0880-22-3586）



えい|の|う|～

四万十地域より

稲こうじ病防除について

稲こうじ病は、以前は豊年穂とも言われていましたが、現在では土壌病害の1つとして減収の要因や異物混入による規格外など、品質を低下させる土壌病害の1つとなっています。稲こうじ病の防除適期は出穂 15 日前頃となりますので下記を参考に防除に努めてください。

表① 幼穂の長さとお出穂までの日数及び稲こうじ病防除の適期

生育ステージ	幼穂の長さ	出穂までの日数
穂ばらみ期（減数分裂期）	5 cm	14 日
	8 cm	12 日

稲こうじ病防除は幼穂形成期に行うことでその効果が上がります。特に上記で示した幼穂の長さが 5～8 cm の穂ばらみ期が防除の適期となります。

表② 効果的な薬剤一覧

薬剤名	倍率及び使用量	使用時期	使用回数	使用方法
ドイツボルドー A	2000 倍 60～150 l / 10a	出穂 10 日前まで	—	散布
撒粉ボルドー粉剤 DL	3～4 kg / 10a	出穂 10 日前まで	—	散布
Zボルドー粉剤 DL	3～4 kg / 10a	出穂 10 日前まで	—	散布
モンガリット粒剤	3～4 kg / 10a	収穫 45 日前まで	2 回	湛水散布

※表②の薬剤を表①で示した期間に散布することで稲こうじ病予防に効果が期待できます。
天候を確認しながら銅剤散布、天候が悪く銅剤散布ができない状況であればモンガリット粒剤の湛水散布をお勧めします。

お問い合わせ先

JA高知県 高西営農経済センター 営農指導課（TEL.0880-22-5179）

令和 6 事業年度 施設園芸セーフティネット構築事業募集について

★施設園芸セーフティネット構築事業とは

燃料価格高騰の影響を受けにくい施設園芸経営への転換を進めるため、計画的に省エネルギー化等に取り組む産地を対象に、農業者と国（1：1）で資金を設け価格が一定の基準を超えた場合に補填金を交付する事業です。

対象期間

11月から翌4月までの燃油購入数量

対象油種

施設園芸の加温に供する A 重油、灯油、LP ガス等（炭酸ガス発生装置等に使用する燃油は対象外となります）

発動基準価格

A 重油：88.9円/L 灯油：94.2円/L LPガス：115.5円/kg LNG：58.2円/m³

加入を希望する方は6月14日（金）までに下記担当者までご連絡ください！！

お問い合わせ先

JA高知県 高西営農経済センター 営農指導課 山崎（TEL.0880-22-5179）
JA高知県 高西営農経済センター 津野山経済課 川田（TEL.0889-62-2335）

皆さんからのご意見、ご感想、つぶやき、川柳、イラストなど、お便りを心待ちにしています！

みんなのひろば

俳句

霧の里句会

春霞^{かすみ}夕焼け小焼け唄流る
軒下の弁当箱に春日射す

市川 和美

初詣で曾孫の姿凛々しくて
春炬燵片つけ止めてもぐり込む

田中 信子

紅椿遺影の夫も年重ね
人よせの口実となる桜餅

今橋 孝子

見頃の報に急かされ花の山
寄せ植えにあと一株のすみれ足す

長谷部 延子

水仙が雨に打たれておじぎする
マンシヨンの狭庭にみごと紅白梅

竹内 春猪

短歌

窪川短歌教室

われが歌を始めしわけは日常の心動かし深く知るため

宮崎 英雄

訪ふたびに友住む里のさままはり四国八の字ハイウェイ工事に

市川 浩子

突然の大谷君の結婚に何だか謎の喪失感あり

中内 佐登美

物だけか人をもなすと聞かざる断捨離という行為の重し

市川 隆子

山間の花ちゃんの店はだれでもが笑いしゃべれる「ほっとサロン」です

竹田 和子

伸びしろを見つけたあいつ月の歌会に熱き成熟男女

黒岩 やよゑ

列車にて見知らぬ人と会話しぬほこりとして別れてきたり

島岡 紀美

三十番札所でまなぶお香つくり御堂に座して心浄めて

北村 さち子

何もかも思いどおりにしたい奴まかり通れり詭弁肅清

文野 見枝子

おたよりから

ゆらゆらとあつたか陽さし縁側に

(橋原町・中越 緑)

あつまやで友と語り吟行す

(津野町・村田 三喜子)

紙一重寒さ緩みて春になり

(津野町・弘瀬 秀頼)



組合員の皆様へ



JA 西条 ルミエール四万十

紙上終活セミナー②-1

「2025年問題（前編）」について

以前から話題にされている『2025年問題』とは、1947年(昭和22)～1949年(昭和24)までの間に出生した「団塊の世代」のすべての人が75歳以上を迎えることにより、75歳以上の人口が急増することで発生する恐れがある一連の問題のことをいいます。具体的には、介護費用や医療費の増大、地域の担い手不足等があげられます。(①～⑤)

●①労働力の不足●

2025年問題によって生じる問題の中で、最も深刻と言われているのが「労働力不足」です。日本では2007年には高齢化率は21%以上になり、「超高齢社会」を迎えました。2022年には29.1%を超えています。高齢者が急増していく一方、若い世代の人口や出生率は減少を続けており、労働資源不足(若者世代)は今後さらに深刻なものになると予測されています。

●②医師不足●

医療における医師不足も深刻な問題です。医師の数そのものが問題になっているというよりも、必要なところに医師がいないことが問題です。地方では、医療を受けたくても設備がなかったり、医師がいなかったり、救急患者が病院をたらい回しにされるという可能性があります。

●③介護の問題●

2025年問題を前にして、団塊の世代と言われる約800万人の人々が、徐々に介護サービスを必要としてきています。要介護・要支援認定者は2000年には218万人、2017年には622万人、2022年2月末では689.1万人となっています。

(④～は次号に続きます)

